

広報



まきへ

わたしたちのまち
 (昭和57年5月1日現在)
 人口 21,251 (+95)
 男 10,490 (+35)
 女 10,761 (+60)
 世帯数 6,284 (+40)

人のうごき(4月中)
 転入 226人 死亡 16人
 出生 29人 転出 144人

生きる喜びを創造するまち・幕別町 (新総合振興計画)



57年

6

No.365

おもな内容

サケの増殖.....	2・3
地震発生 その時あなたは.....	4
恐ろしい農業事故.....	5
ぼくのお母さん わたしのお父さん①.....	5
まちのニュース.....	6
健康カルテ⑭ 体力づくり、.....	6
みんなの手でまちを美しく.....	7
春の叙勲で幕別から二人.....	7
ふるさと館ニュース⑪.....	8

ゲートボール同好会が発足

町内の老人クラブ11団体のお年寄りが参加し
 5月20日、ゲートボール同好会を発足しました。

この日、早速、第1回実技講習会を町立幼稚園グラウンドで開催、お年寄りたちは「健康的で楽しいですね」と、熱心に講習を受けていました。

●発行・幕別町役場 幕別町本町130番地 ☎(01555)4-2111
 ●編集・町民課広報広聴係 ☎内線111 ●印刷・ソーゴ印刷

サケの増殖

川まがせでは増えない

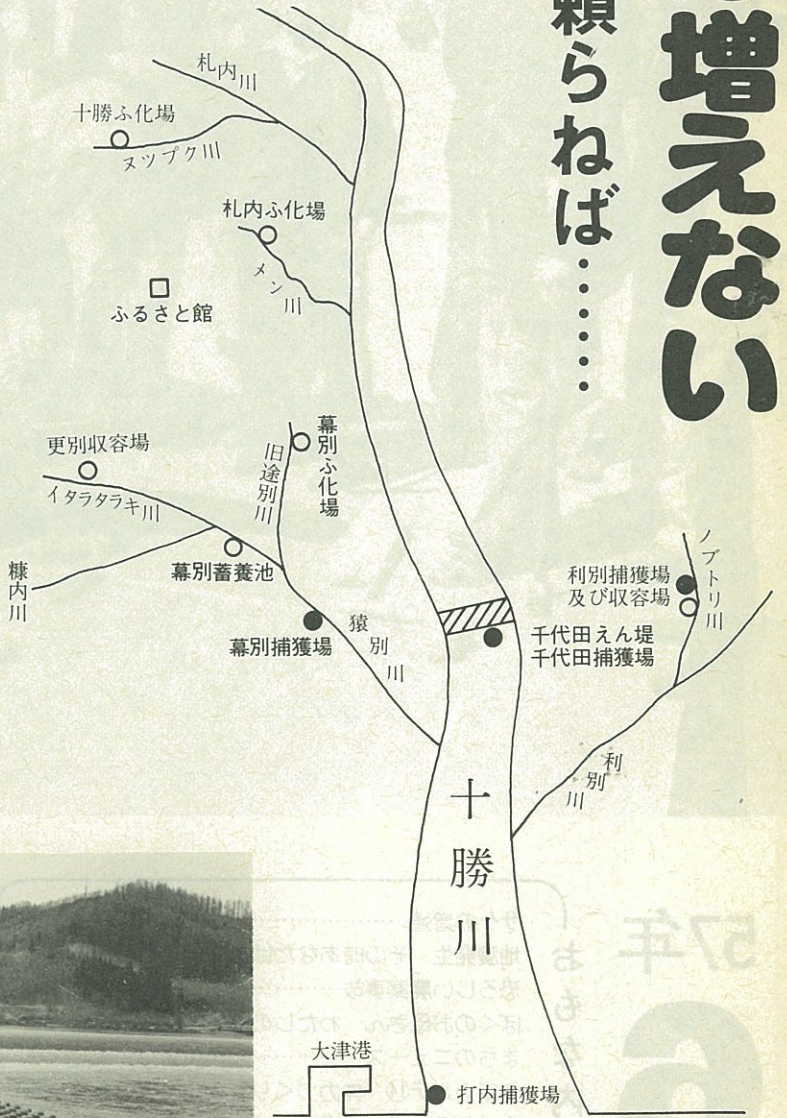
人工ふ化に頼らねば……

十勝川水系には、サケ・マスふ化場があり、毎年たくさん
のサケが捕獲されています。捕獲したサケは、ふ化し、
稚魚になり、海へと、そして生れた母なる川へ元気で戻っ
てきます。これは、ほとんどが人工ふ化によるもので、も
し人工ふ化がなかったら、十勝川はもちろん、どこの河川
にも、たくさんサケがのぼらないことでしょう。
私たちの住んでいる幕別町には、二つのふ化場があり、
こんなすばらしい資源があることを、あまり知られていま
せん。そこで、水産庁サケ・マスふ化場を訪ねて、お話を
聞いてみました。捕獲数が多いことと、最近ではふ化事業の
技術の向上によって、良質のサケ（ギンケ）をつくること
に努力しているとのことでした。

十勝川水系の捕獲

川から海へ出たサケの稚魚は、沿岸からベーリング海などの遠い北の海へ行きます。そして、プランクトンなどを食べて、一万キロにも回遊し、大きく育って三年から五年もの旅をおえて、生れた川へ戻ってきます。

十勝川水系の捕獲場は、千代田えん堤（十勝川本流）幕別（猿別川）打内（浦幌町・十勝川本流）利別（池田町・ノブトリ川）にあり、昭和五十六年度は二十四万五



千尾、全道の十一%を捕獲しています。その内、利別捕獲場は池田町営で行っています。

種卵は、親魚を疲れさせたり、傷をつけると良い卵がとれません。良い卵をとるためには、サケの生態や川の状態にあわせて設備が必要で、しかも、河川にはいろいろな制約があつて、実際には十分な条件を備えた設備をつくるのが非常に、むずかしい状態にあります。

そのためには、幕別の各捕獲場は、捕獲数が多いことと、良質の

サケ（ギンケ）をつくることに、大変重要な目的を果しています。

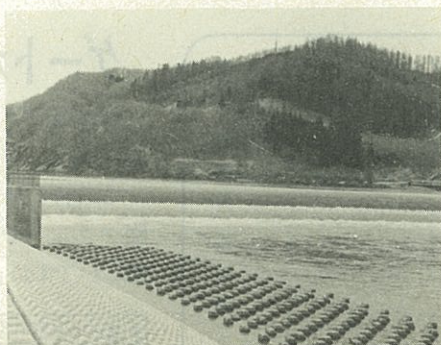
卵の熟するまで蓄養池で

サケは、川をのぼって行くうちに卵が熟し、ふ化しやすい状態になります。でも、十勝川のようにギンケの魚がそ上するために、卵が未熟で、いったん蓄養池で五日から三週間ほど飼っておきます。蓄養池で、完熟するのを見分けるには、一尾ずつ腹を押して調べますが、馴れた人はサケをつかまえてだけで分かっています。

幕別には、昨年、猿別川の頭首工付近に蓄養池をつくり、これからも大々的に使用していくそうです。その外、各ふ化場にも蓄養池を持っています。

六十日で生命の鼓動

蓄養池で飼ったサケは、選別して完熟した卵から精子をかけ、水に入れると卵は緊張して、固くなります。そして、六十日位して小さな生命の鼓動が始まります。一尾のメスから生む卵は、平均三千四百粒で、十尾のメスに対し



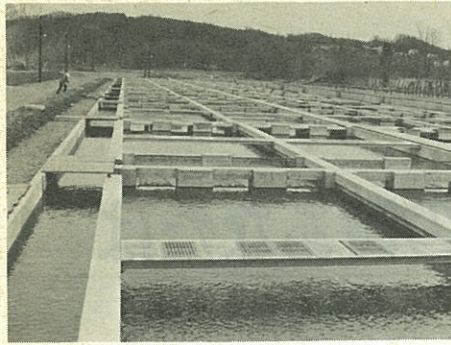
千代田えん堤の捕獲場

てオス二尾が必要です。卵をとるのは九月二十日頃から、十二月二十日頃まで、遅い年では二月十五日頃までかかった時があります。

ふ化はきれいな水が必要

卵は、水温六度から十度のふ化槽に入れ、約一ヶ月すると目が出てきます。病気にかからないよう消毒をし、目が出てから約一ヶ月し

太平洋



幕別ふ化場

て、卵膜を破ってふ化が始まり、そして、養魚池へ移します。養魚池へ移して、約二ヶ月すると、お腹についていた袋が小さくなって餌を食べ始めます。それから飼育用の池へ移し、丈夫な稚魚を育て放流しますが、放流する時期が大切です。

放流して回帰率は3%

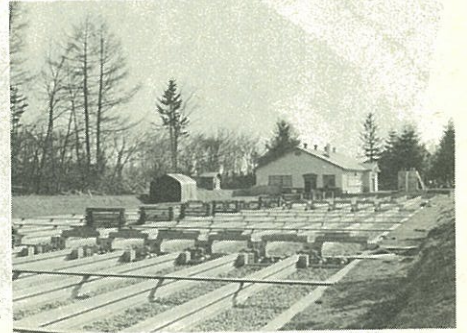
どの段階も、湧水や地下水のよくなききれいな水が必要です。十勝川水系でとれたサケは、ほとんど幕別の二つのふ化場で行っていて、昭和五十六年度の採卵数は二億五千万粒、全道の二二%になっています。幕別のふ化場の発眼卵は、十勝川水系以外や、道外の施設にも出しています。

の温度や海の状態により放流します。放流してから海へ出るまでは、三週間から七十日かかり、途中でニジマス、キュウリ、クチボソなどの天敵に食べられたり、ふ化場付近では、カモにも食べられるのもおり、海へ出るまでには一四、五%にも減ってしまい、天敵防止と健康な稚魚を育てるのに苦労しています。

また、三年から五年目に川に戻ってくるには、トド、オットセイ、サメなどに食べられ、沿岸や川へ戻ってくるのは、放流してから約三%の回帰率しかありません。幕別でふ化した稚魚は、昭和五十六年度で一億二百五十万尾で、全道の二一%になっています。

十勝川の特徴はギンケ

三年から五年目にかけて回帰するサケは、八月下旬から十月上旬に沿岸や、十勝川にのぼってくる



札内ふ化場

また、三年から五年目に川に戻ってくるには、トド、オットセイ、サメなどに食べられ、沿岸や川へ戻ってくるのは、放流してから約三%の回帰率しかありません。幕別でふ化した稚魚は、昭和五十六年度で一億二百五十万尾で、全道の二一%になっています。

の温度や海の状態により放流します。放流してから海へ出るまでは、三週間から七十日かかり、途中でニジマス、キュウリ、クチボソなどの天敵に食べられたり、ふ化場付近では、カモにも食べられるのもおり、海へ出るまでには一四、五%にも減ってしまい、天敵防止と健康な稚魚を育てるのに苦労しています。

のギンケといい、十月上旬以降にくるのをブナケといい、いわゆるホツチャレといっています。このギンケをつくるには、流域の長い川が必要のため、十勝川が適しています。それは、サケが生れた時から、川の流域を知っていて、千代田えん堤などで捕獲される時は、放流がえん堤から、まだ遠い支流から放流するからで、サケはそれを知っていて、卵を熟する途中で捕獲してしまいうからです。ギンケは、食べておいしいことから需要が多く、全道、全国において十勝川は重要な河川になっています。それだけ、ふ化場の職員は大変です。



サケ・マスふ化場 田浦久雄場長 (札内事業所)

温かい気持で見守って

十勝川のサケ・マス増殖事業は歴史が古く、百年にもなろうとしています。日高山脈を源流とした氾らん帯が、札内川を起源として、伏

帯が、札内川を起源として、伏

川をきれいにしよう

十勝川は、昔からサケの生息に適した川であり、それが汚染により一時的に大変な危機状態でありましたが、工場などの協力により、除々にきれいな川になってきています。特に、有リン洗剤は川や海を悪化させることから、無リン洗剤を使用することを、皆さんも考えていただきたいし、そのことによつて、サケの供給基地、十勝川を守ることになります。

ふ化場は、九月上旬から十月下旬頃が採卵時期で、見学したい方はこの時期が良いでしょう。見学によりふ化事業に関心と理解を深めてもらい、資源の豊富な十勝川は、これからも続くことでしょう。



ふるさと館

ジャンボ水槽でサケが昨年10月に自然産卵をし、飼育に挑戦しています。稚魚たちは、皆んなに見守られながら淡水と人工海水で元気に育っています。



幕別捕獲場 (猿別川)

また、「ふるさと館」では、小学生によるサケの稚魚の生理、生態についての実験、飼育、放流を通しての経験は、今後の人間形成の場として、大いに役立つものと思います。

今年も、千代田えん堤をはじめ十勝川水系に数多くのサケが回帰します。最近では、密漁者も少なくなりましたが、どうか温かい気持で見守ってください。

地震発生

地震に備えて……

その時あなたは



十勝沖地震で崩壊した工場 (昭和27年3月)

私たちの住んでいる道東地方は、過去に十勝沖地震、根室沖地震など数多くの大きな地震が発生しています。最近では、今年の三月二十一日に浦河沖でマグニチュード7.3の地震は町民の皆さんの記憶にまだ、はっきりと残っていることでしょうか。天災は忘れたころにやってくる——いつ襲ってくるかわからない地震に備えて、ふだんからの心の準備をすることともに、家庭での「地震対策」を怠ることなく、被害を最小限に抑えようというみんなで考えてみましょう。

ふだんの心がけ

万一、震度5程度の地震が起こった場合、人は立って歩くことが難しく、はわなければ動けないような状態ですから、地震が発生してからでは、ほとんど何もできません。

せん。

先頃震度6の烈震に見舞われた浦河町で、地震の規模の割合に死者が出なかったのは、被害が極めて少なかったのは、地震の多い地域ということから、町民の防災意識がかなり高かったためといわれています。

地震の発生そのものを防ぐことはできないにしても、日ごろから身のまわりを安全にしたり、家族で地震対策について話し合うなど、私たち一人ひとりが地震に備えることによって、被害を最小限に抑え止めることは可能です。

大地震が発生したら

①まずわが身を守れ
丈夫な家具などに身を寄せて、しばらく様子を見ることが大切です。あわてて戸外に飛び出すと、ガラスの破片などの落下物、建物などの倒壊と、危険がいっぱいです。



十勝沖地震で崩壊した校舎 (昭和27年3月)

②すばやく火の始末

過去の例から大地震で怖いのは火災。地震を感じたらすばやく火の始末をしましょう。

万一出火した場合には、初期のうち火を消すことが大切です。

③危険な場所は避ける

狭い路地、へいぎわ、がけの上やがげ下、ブロックべいのそばなど危険な場所にいるときは急いで離れましょう。

④車を運転していたら

道路は波打ち、パンクしたようにハンドルがとられます。ハンドルを両手でしっかりと押え、周囲に注意して、ゆっくりスピードを落としながら道路の左側に停車、エンジン进行を切ります。

カーラジオで地震情報を聞き、適切な行動をとります。車を置いて避難するときは、キーをそのまま、ドアロックはしないでおきましょう。

おしめ、を贈る運動に協力を

札内にある特別養護老人ホームでは、毎年たくさんのおしめ、が使われています。皆さんの家庭に、使い古しのシーツや衣類がありましたらご協力ください。なお、運動期間は6月30日まで、ご協力をいただける方は、公区長さんか婦人ボランティアの会員に連絡ください。または訪問した時はよろしく願いいたします。

◎お出しになる郵便物は (例)

正しいあて名を 書きましょう!!

(郵便番号も忘れずに)

※転居、転入の際は郵便局の
窓口へ転居届を忘れずに……

089 -06

幕別町錦町3番地12
郵便太郎方
郵便次郎様

(裏面等に差出人の住所、
氏名も忘れずに)

恐ろしい農薬事故

取り扱いに十分注意

各作物のまき付けも終り、これからは病害虫の防除作業である農薬の散布が始まります。防除作業は秋の収穫をも左右する大切な作

業ですが、防除に使われる農薬は全てが毒物、劇物であり、その取り扱いや散布の方法を誤ると、作物に被害を与えるばかりでなく、

人や家畜、魚などにも危害を与えることとなります。農薬の安全使用について皆さんと考えてみたいと思います。



駒島小学校 (4年) 相沢理枝子さん



お父さん



お母さん



駒島小学校 (4年) 長崎 厚君

① ぼくのお母さん わたしのお父さん

わたしのお父さんはいつもしごとをしています。春も夏も秋も冬もです。

春と夏のしごとは、いもきりと

か、どうぐをそろえたり、まびきをします。また、ビートをうえたり、いもをうえたり、くすりをまいたりします。秋はいちばんいそがしいじきです。秋はいもほりをした

します。冬はそんなにしごとはないけど、ハウスをつくったり、雪がふったらハウスの雪をよかに、よるでもいけます。わたしのお父さんは、たばこをすわないからとてもいいです。わたしはたばこのけむりが、いちばんきらいなのです。お父さんは、たまあにわたしたちとあそんでくれるので、とてもすきです。

ぼくのお母さんは、らくのうを

しています。ぼくは、とてもたいへんだなあと思います。牛に牧草や、サイレイジヤ、パルプや、ふすまや、はいごうしりようをやらなくてはだめなので、いっしょうけんめいはたらいています。牛にえさをつくらないとだめなので、トラクターをうごかさないとできないのです。それに牛を外に出さないとだめです。

それにビートをつくっているので、よけいにたいへんです。まびきをやらなくてはならぬいし、苗ずらしもしなくてはなりません。苗ばらしもやらなくてはだめです。小牛にミルクをやります。これはお父さんとお母さんのしごとです。らくのうかのお母さんはいへんです。

① 散布の前には
① 使用する散布器具の点検を十分にを行う。
② 健康管理に十分注意し、体の具合の悪い人は散布作業に従事しない。

② 農薬の調合にあたっては
① ラベルをよく読んで注意事項を守る。
② 散布液の調整は、必ずゴム手袋やマスクをして行い、手や顔などの露出部分を少なくする。

③ 散布の時は
① マスク、ゴム手袋、長袖の作業衣を着用する。
② 風向きに十分注意し、また、風の強い日は散布しない。
③ 日中の気温の高い時は避け、朝夕の涼しい時に散布する。
④ 同じ人が長時間散布しない。

④ 散布が終わったときは
① 使用後の器具等は、よく水洗いする。
② 体を石けんで洗い、うがいをして十分休養する。

⑤ 使用残りの農薬は、カギのかかる場所に保管する。
④ 散布中あるいは散布

後、もし体に異常を感じたら、すぐに医師の診察を受けるようにしましょう。

⑤ 空ビン、空袋は
農薬は一時期にしかも多量に使われるため、農薬の空ビン、空袋が放置されている場合があります。空ビン、空袋にも農薬が付着しており大変危険です。

町では、空ビン、空袋を安全に処理しようと、秋に各農家より収集しますので、それまで子供の手の届かない安全な場所へ厳重に保管して、そのまま放置しないよう十分注意しましょう。(回収の日程は決定しだい連絡します)

▽ 農薬を使用する際には、以上五つの事項を十分守り、病害虫の発生程度や雑草の種類などをよく見極め、その状況に応じて適正な薬剤を選択し、危害防止に万全を期して下さい。



くまの ニュース

● 相川南老友会で清掃奉仕

4月30日に相川南老友会の17人が、白鳥の飛来する旧途別川で清掃奉仕をしました。この日は相川小の生徒21人も手伝いました。



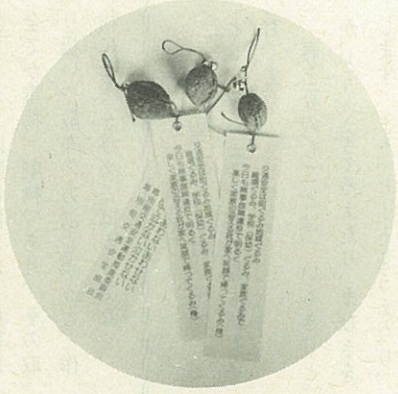
● 第2回桜まつり開催される

幕別商工会幕別支部では5月16日に、第2回桜まつりを開催しました。幕別運動公園では家族づれなどで一日中にごわっていました。



● 交通安全くくるみを各戸に配付

交通安全くくるみを各戸に配付しました。このくくるみは交通安全を入魂したものです。交通安全を願ったものです。なお、本町の交通事故死0の日が5月17日に539日でストップしました。



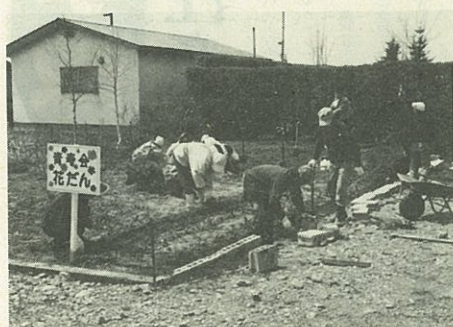
● 町営牧場で入牧行われる

町営乳牛育成牧場では、5月18日に330頭の牛の入牧を行いました。乳牛は10月中旬の出牧まで体重を増やして酪農家に引き取られます。



● 青葉青寿会で花だんづくり

4月30日に札内勤労者会館で、青葉青寿会のお年寄り15人が自分の家から花を持ち寄るなどして、花だんをつくりました。



健康 カルテ

14

体力づくり

体力づくりのポイント8

①長続きする工夫を：
「きつくないものからだんだん強く」「週二日から一日、三日へ」と段階をふみ、少しずつ前進させ、持続性をもたせることです。

②身近な素材を活用：

体力づくりを大きさに考えず、イスやタオルなど身近な素材を使って実行すること。子供相手に遊びながら、夫婦でお互いに協力しながらでもできます。

③健康診断で自分を知る：

高血圧、心臓病、糖尿病などの病歴のある人は必ず医師の健康診断を受けてから始めましょう。

④準備運動、整理運動を：

その場のかけ足や柔軟体操など十分間以上は準備運動をしましょう。運動終了後は脈拍を整え、緊張した筋肉を柔らかくするために整理運動が必要

です。

⑤運動する季節と時刻：

体力のない人、お年寄りは寒冷下、炎天下で運動するのは危険です。運動の時刻は食前が理想的。食後なら二時間以上間をおくことです。

⑥常にマイペースを守る：

自分の体力と相談しながらマイペースですることです。運動後、心地よい疲労感と充実感が残れば充分です。

⑦運動中からの異変：

カゼ、発熱など調子の悪い時や睡眠不足、酒気を帯びての運動はいけません。また、運動中に胸痛や呼吸困難、めまい、吐気などがある時は、直ちに中止して下さい。

⑧疲れすぎないように：

疲労が翌日に持ち越されるような運動をしているなら、もう一ランク上げた運動に切り変えてください。

(柴田保健婦)



みんなの手でマチを美しく

拾うことよりも捨てないことが大切

マチが美しく住み良いということとは、大変すばらしいことであり、それは私たちの願いです。ところがどうでしょうか。マチは決して美しいとはいえません。道路や公園、そして家の周りなど至る所に空カンやゴミが落ちています。

それでは、どうしてそうなるのでしょうか。空カンやゴミを、少しくらいとか自分ひとりでくらくらなどという気持ちで、捨ててしまっただけという心当りはありませんか。

皆さんが美しく住み良いマチにしたいと思うのなら、空カンやゴミを拾おうという気持ちよりも、みんなが協力して、絶対に空カンやゴミを捨てないという気持ちが大切なことです。

そこで、美しいマチにするためには、公区で清掃日を決めて行く

とか、各種団体活動で取り入れるなど、町民一人ひとりが協力し、マチを美しくしていこうという心の輪を拡げていかななくてはなりません。また、自分の庭を掃除するときに、その範囲を一步拡げることは重要なことではないでしょうか。マチはみんなのものであるから、せめて家の周りや家の前の道路も同じように掃除しましょう。



善意による花だんづくり

そのときに雑草が生えていたら取ることも心掛けましょう。そして、花だんを作るとか、公園などの花だんに雑草が生えているのを見

つけたら取るなど、マチを美しくするために今一度、町民一人ひとりが考えてみようではありませんか。

春の叙勲

二人から別幕

春の叙勲で、農民代議士として活躍された元衆議院議員、美濃政市さんが勲二等瑞宝章を、道路維持業務ひと筋に三十二年間努められた、川田政之さんが勲七等瑞宝章をそれぞれ受章しました。

美濃政市さん



(70歳)は、昭和二十三年、幕別農協の創立と同時に組合長に就任、その後、町議選、長八年)道議、衆議(連続四回当選、十二年間)と、この間も農政一筋に努められました。

「議員は自分だけで出られません。川)から明野新川長寿会へ一万円



川田政之さん (69歳)は、昭和十四年、開建の前身、土木現業所に入り、昨年四月帯広開建を退職するまで、道路維持業務ひと筋に三十二年間努められました。

「数少ない榮譽を頂いてうれしい次第ですが、今、頭の中をよぎるのは、砂利道の維持をしていたころの苦しい思い出ばかりですね」長年の労苦が認められただけに感慨もひとしお深いようです。

寄付者のお名前

町社会福祉協議会へ……

▽福野黎明さん(緑町)から母が生前お世話になりましたと五万円
▽須田美一さん(新和)から弟が生前お世話になりましたと二十万円
▽木藤五市さん(幸町)から妻が生前お世話になりましたと三万円
▽平沢富雄さん(札内桜町)か

老人クラブへ……

ら身障者福祉分会に二千五百四十二円
▽匿名の方から千円
▽福野黎明さん(緑町)から幕別老人クラブへ一万円
▽谷地田敏男さん(明野)から明野新川長寿会へ一万円
▽加藤照正さん(明野)から明野新川長寿会へ一万円
▽高井松市さん(明野)から明野新川長寿会へ一万円
▽坂本博さん(新

川)から明野新川長寿会へ一万円

▽氏家逸男さん(新川)から明野新川長寿会へ一万円

▽稲葉延寿さん(大豊)から明野新川長寿会へ三万円

▽漆原クニエさん(相川北)から相川北一心会へ二万円

▽岡田ソノさん(相川北)から相川北一心会へ一万円

▽武田昇市さん(相川北)から相川北一心会へ一万円

▽川田みつえさん(相川北)から相

十勝愛育園へ……

▽塚田充さん(札内新北町)から二万円

ストップ・ザ・交通事故

交通事故死ゼロを目ざして

南町81
加瀬谷節子さん



私は、町の交通安全指導員をして十年目になります。その時、大変危険な現場を目撃し、ぜひ皆さんにお願いしたいことがたくさんあります。

はじめに、車を運転する人に提言するのですが、乗る前に必ず点検してほしいということと、横断歩道の近くには絶対、車を止めないで下さい。つぎにお母さま方にお願いです。子供に自転車を買っただけで、きちっと法規を教えてあげて下さい。特に、幼児の三輪車は歩道に乗るようにして、お母さんが何日もつきそってあげることが望ましいと思います。それからお年寄を交通事故から守りましょう。お年寄は子供と同じく交通事故が多いので、運転者も特に注意するよう心がけましょう。

ふるさと館は ベビー・ラッシュ

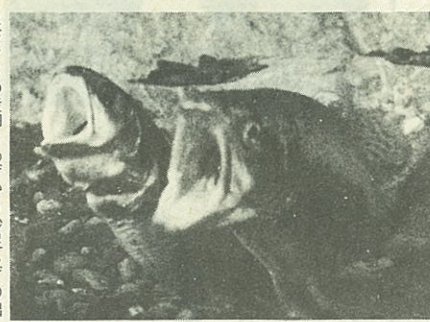
「サケの産卵はすつかり有名(?)になっ
てしまいました
たが、他にも
水槽の仲間た
ちはおめでた
つづき。
アメリカガザ
リガニ、エゾ
サンショウウ
オ、それから
ニジマスと、
次々に新しい
生命の誕生で
水槽は大にぎ
わいです。

アメリカザリガニの子は三匹に
なつてしまいましたがおよそ三
五匹に育ちました。透明のチュ
ーブ状の卵から生まれたエゾサン
ショウオのオタマジャクシはおよ
そ五十匹(生まれた時は、その四
倍くらいいました)。どちらも共
強い結果、弱いものは淘汰され
て強いだけが生き残るのです。



すっかり銀色になったサケたち。
水槽飼育のせいで人に慣れ、近
づくといっせいに集まってき
ます。

餌をたくさん与えても、こうした
生き物の本能を静めるのは難しい
ようです。
五月中旬、ニジマスが三回にわ
たつて産卵しました。産卵床(卵
をうみつけるための穴)を尾ビレ
で掘ったり、オスがメスにすり寄
るしぐさなど、すべてサケにそつ
くりです。このようすをスタッフ
の居川研治さんが見事、写真に収
めました。



ニジマスの産卵。わずから秒足らずの出
来事。手前がオス。

決定ノサバイバル・スクール参加者

- 輝行成子枝志巨 菅宏美信彰 純法光子浩範真光成志志子 敦和豊宏志子 樹え美 潤史宏子 茂誠博潤 昭り二美 之
- 幸徳大代澄健 貴睦お 正清昌芳 昌宏智雅英志将公強弘徳 美 智政徳綾弘み直 浩智紋一 お章 智裕
- 相田部原藤崎橋前田岡村か 岡村内藤加鎌桐小郷 藤野藤海沢戸村橋川地谷島原尾 岡岡 谷田山山 淵浦原山山 根本本 和田
- 沢田部原藤崎橋前田岡村か 岡村内藤加鎌桐小郷 藤野藤海沢戸村橋川地谷島原尾 岡岡 谷田山山 淵浦原山山 根本本 和田
- 相田部原藤崎橋前田岡村か 岡村内藤加鎌桐小郷 藤野藤海沢戸村橋川地谷島原尾 岡岡 谷田山山 淵浦原山山 根本本 和田

サーモン通信⑳

人工海水ですくすく

ジャンボ水槽横の小型水槽で、
海の水とそっくり同じ成分に作ら
れた海水。人工海水を使ってサケ
を飼っています。サケのほかに、
銀毛化したヤマベ、ギンザケ、ニ
ジマスもいっしょに海水に慣らす
実験をしています。

第27回 幕別 ちりり

「お父さん、住宅はどれ？」
「たぶん、あの家がそうだろう」
「あれがですか?.....」
たつえ(妻)は、あまりにもひ
どい小屋に立ちすくみ、涙が流れ
るのを、おさえきれなかった。
その小屋は、移住民小屋を改造
した小屋であった。屋根は桤葺で
まわりの壁は大木を三尺に切り、
それをたてに
割った板が組
み合わされた
掘立小屋であ
った。
まわりは原
始林のごとく
ナラや柏の大木が繁茂し、昼でも
なお暗い密林があった。その中に
一つしか教室のない学校だった。
昭和九年三月二十四日、酒井靖
夫は三十一歳、妻二十四歳の春で
あった。
中士幌から汽車で幕別(止若)
まで行き、幕別から客馬車に乗つ
て奥糠内(駒島)へ、そこには、
部落の人が乗り馬で迎えてくれた。
たつえは四カ月の長女をおぶり
その馬にまたがった。夫はそのあ
とについて四キロのどろんこ道を
急いだ。
夕方やつと弘成(弘和)小学校
に着任し、夜おそくまで、大歓迎
の宴が開かれたのである。
それからの弘成(弘和)小学校
での夫の人生は、毎日激務の連続
だった。
一日のはじまりは、小使いには

じまり、たった一人の教師が一年
生から六年生まで八十人の児童の
指導、雑務、部落のさまざまな問
題で目のまわるような忙しい毎日
であった。冠婚葬祭、農業経営、
納税、なかでも赴任する前に部落
問題を聞かされ、覚悟はしてきた
が、とにかく飲むとさわると、喧
嘩ははじまるのである。又夫婦の
見回り床についた。
昭和十五年八月三十一日付(三
十五歳)で校長となる。
昭和三十三年の正月もすぎ、農
家では一年間の計画や、納税の申
告に忙しくなる頃、よく農家の人
たちが、校長宅を訪れて、書類の
書き方を教わった。客が帰ったあ
と、夫はいつものように、学校を

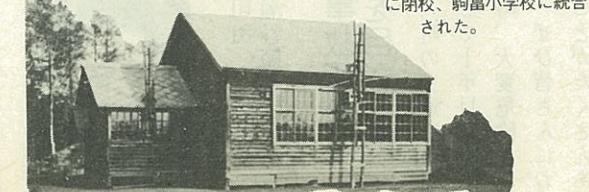


なにかからなにまで、 大忙しの酒井先生

思い出の学校③ 弘和小学校

問題、お嫁さんの話と、
あらゆる事が夫を中心に
取り計らわれていた。
このような生活の中で、
いつの頃から懐に辞表を持っていた
ことがあった。
月日は矢のごとく過ぎ七人の子
どもに恵まれ、いつしか「住めば
都」となった。しかもこのすばら
しい自然と、夫や家族に対して温
かい心を寄せてくれた地域の人々
の信頼が、強いきずとなつてい
た。
夫はまた教え子をやさしく愛し
そしてきびしく教えた。爪切
り、耳あか、頭のしらみ、よくす
きぐしですいた。
たつえもまた、女学校を卒業し
ていたので教師の資格があった。
国語、書き方、音楽、家庭科など
を教えた。
しかし毎日つらいことばかりで
はなかった。近くを流れる猿別川
でやまべつりを楽しんだ。今日の
夕食は何匹くらいと言えば、一時
間たらずで百匹近くつって帰って

昭和2年8月31日、「奥糠内尋常小学校弘成特別教授場」として設立。校舎が
完成し授業をはじめたのは翌3年2月1日から。開拓が進むにつれて児童数
が増加、昭和15年8月31日「弘成尋常小学校」に昇格、同16年4月「弘成国民
小学校」に、同19年に「弘成国民学校」と改称、戦後22年4月に「弘和小学
校」となった。多くの卒業生を送りだした同校も、昭和47年3月
に閉校、駒島小学校に統合された。



(取材・岩田繁行)